

## 第2回 自動車安全技術プロジェクトチーム会議の概要

### 1 開催日時等

日 時：平成25年9月5日（木）午後3時00分～4時30分

場 所：県議会議事堂ラウンジ

出席者：

【企業】 清水 克正 アイシン精機(株) 技術企画室 主担当  
松永 栄樹 (株)アドヴィックス 制御第2技術部長  
太田 俊二 オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株) 先行技術開発課長  
小坂 明雄 (株)デンソー 技術企画部技術統括室 担当課長  
木津 雅文 トヨタ自動車(株) IT・ITS企画部 室長  
浅田 浩之 三菱自動車工業(株) 電子技術部担当部長

【大学】 小栗 宏次 愛知県立大学 情報科学部 教授  
鈴木 達也 名古屋大学 大学院工学研究科機械理工学専攻 教授  
武田 一哉 名古屋大学 大学院情報科学研究科メディア科学専攻 教授

【行政】 国土交通省中部運輸局、豊田市都市整備部交通政策課、愛知県警察本部、愛知県産業労働部、地域振興部、県民生活部、建設部

### 2 議事概要

事務局よりプロジェクトチームとしての取組状況について説明を行い、各PTメンバーより、プロジェクトチーム関連の取組について発表した。主な発言は以下のとおり。

#### 【主な発言】

- 愛知県が交通事故死者数全国ワーストワンからベストワンを目指すとか、皆が受け入れられる大きな目標を掲げるのが大切。
- 消費者の安全機能に対する過大な期待が、普及の妨げになる。予防安全の技術とはこういうものだと、広く公に広報活動をしていくと、普及が進む。
- 発行・配布されている交通教本のトピックスに、衝突防止装置、飛び出し防止装置と書かれているが、メーカーでは防止装置ではなく、支援装置と認識している。
- 安全技術の普及活動については、既に打っている対策をより良くしていく活動と、まだ打っていない対策を実現させる活動とに分けて、議論が必要。普及に必要な活動や支援は、それぞれで異なる。その違いを意識しながら議論すると、もっといい手が打てるのではないかな。
- 安全技術の普及に関するビジネスモデルとして、お客様にインセンティブを与えることが考えられる。イギリスでは装備車両に対する保険料低減プログラムが開始されており、愛知でも類似インセンティブを検討したらどうか。
- 自動車安全技術により、事故の7割は未然に防ぐことができるが、残り3割は、運転者の意

識、行動に起因する。運転者への安全運転講習が、その削減に貢献する。

- 安全技術搭載車の良さを、愛知県ドライバー全員が一度は体感できるように、自動車学校での免許取得、更新、高齢者講習の機会などを活用できると良い。
- 70歳以上の高齢者は、道路交通法において、免許更新時に講習会の受講が義務化されており、そのカリキュラムは画一的に定められているため、自治体に裁量の余地はない。
- 京都では、認定講習として、モニタリングの結果を反映した高齢者講習を取り入れている教習所があると聞いている。県内の自動車学校と協力して、安全装置を体感できるイベントを検討してはどうか。
- 事故の詳細データをオープンにしていれば、新たなヒントが得られて、新たな技術開発ができる。また、車両情報だけでなく、運転者と車両と周辺環境、この三つを精緻に測ることができれば、相当なレベルでの安全技術の開発が進むと考える。
- 道路管理者として、プローブ情報の中から、交通事故の危険箇所についての的確な把握を期待しており、その成果を効果的に道路の交通安全対策に活用していきたい。そのためには、将来的に、自動車の挙動のきめ細かいデータの収集ができる技術開発、或いは現在一部の車種に搭載されているナビ機能のより多くの車への搭載を期待する。
- 国からの支援を受け、従来と比べ16倍のデータ容量を有する次世代型光ビーコンの整備を、今年度から始めており、来年度以降も順次進めていきたい。
- 力の結集という点では、企業の持つニーズ、技術と大学や県の施設が持っている環境を融通しあい、それぞれを活すことができれば、この地域はもっと大きなことができる。そういうポテンシャルはまだまだあるので、連携をとっていくことが大切。
- 自動車本体の技術は大手企業・大手サプライ、その周辺の製品・設備は中小企業の技術や大学のシーズも踏まえるといったプロジェクトができないか。中小企業を中心とした研究会のようなこともやりながら、その成果を見える形で、地域の取り組みとしていきたい。